

## 非常震災救護の發端

大正十二年九月一日正午横濱を中心として關東地方に突發せる振古未曾有の大震災及び之に伴ひ爆發したる空前の大火災は、瞬間的に幾十萬の同胞を慘死せしめ幾十億の文化的施設を破壊焼失せしめたり。當時通信機關斷絶の爲め此凶報が一般に傳はりたるは翌二日の未明にして、恰も第五回國際勞働總會に列席すべき宇野勞働代表及龜井勞働顧問の一行を載せたる伏見丸出帆の當日なりき。由來横濱は幾千の海員が家庭を有する「ホームポート」にして之等の家族全部が悉く此慘禍の禍中に投ぜられたるや明白なり。隨て此際本船員にして職に忠ならんことを自ら家族を救ふこと能はず、家族に忠ならんことをすれば船を去らざる可らず、船を去れば船は停まり勞働總會に對する國家的使命は之が爲めに大なる支障を來たさんとする、眞に進退兩難の窮地に臨みたるときに當り一同は沈思熟考凝議の結果奮然として一身の苦痛一家の安否を犠牲に供し、身を以て國家的使命に奉ずべく斷乎たる決心の下に一人の下船者なく肅々として神戸埠頭を解纜せり。此間に於